

2023（令和5）年度 事業報告書

1 営業日ならびに営業時間

営業日 月曜日～金曜日及び管理者が定めた日

営業時間 8時30分～17時00分

サービス提供時間 9時30分～15時30分

2 年間開所日数

269日

3 利用者状況（2024年3月31日現在）（単位：人）

サービスの種類	定員	登録利用者数	平均利用者数	新規利用者数	退所者数
生活介護	15	15	14	0	0
就労継続支援B型	13	13	11.5	1	0

平均年齢=29歳 男性：19名 女性：9名 平均区分=5.0

4 職員体制（単位：人）

サービスの種類	職種	勤務形態		
		専従 or 兼務	常勤	非常勤
生活介護	医師	専従		1
	生活支援員	専従	1	0
		兼務	3	9
	看護職員	兼務	0	2
	機能訓練指導員	兼務	0	2
就労継続支援B型	生活支援員	専従	1	0
		兼務	3	9
	職業指導員	専従	1	0
	目標工賃達成指導員	専従	0	1
		兼務	0	2
パティシエ	専従	0	1	
共通	管理者・サービス管理者	兼務	1	
	送迎専門員	専従	0	0

5 利用者送迎

ア 姫路市内を4方面に分け運行し、1回あたり20名程度が利用している。

イ 警報時や体調不良時等、利用者の状態に配慮し、緊急的な送迎にも臨機応変に対応している。

6 研修関係

専門職者としての資質の向上を図る為に、施設内研修や外部での研修に積極的に参加し、専門分野などの知識や最新情報を収集し、他職員への情報提供や事業所でのフィードバックを実施。現在、コロナ禍により、オンラインでの研修が主流となっており、遠方で開催される研修にも参加。

ア 事業所内研修

2023. 4. 14	「職員行動基準」について	上田施設長	19名
2023. 5. 19	「コミュニケーションを力に変える」 ～連携力を高めて仕事の質を高めていくには～ ひょうご仕事と生活センター外部専門家	山本 伸子氏	18名
2023. 6. 16	「接遇マナーについて」	三笠主任	18名
2023. 7. 14	「危険予知トレーニング」	三笠主任	18名
2024. 1. 19	「心理的安全性」のある職場の作り方 ひょうご仕事と生活センター外部専門家	黒田 晴美氏	20名
随 時	新人研修		

イ 外部研修

日 付	内 容	参加者	場 所
2023. 5. 30	衛生講習会(食中毒予防)	三浦	オンライン開催
2023. 6. 14	社会福祉施設等新任職員研修	内海	姫路市総合福祉会館
2023. 8. 20	親なきあとのお金のお話研修	上田	アクリエ姫路
2023. 8. 25	感染症対策研修(障害・高齢者施設管理者)	上田	オンライン開催
2023. 8. 31	事業継続計画(BCP)策定研修	三笠	オンライン開催
2023. 9. 12	障害者虐待対応力向上研修(B研修)	金田	兵庫県立姫路労働会館
2023. 11. 22	国立のぞみの園セミナー2023 認知症又は認知症の疑いのある知的障害者 への支援と課題	上田	オンライン開催
2023. 12. 20	マネジメント研修	中濱	姫路市総合福祉会館
2023. 12. 20	マネジメント研修	内海	姫路市総合福祉会館
2024. 1. 15	労務管理研修	上田	オンライン開催

2024. 1. 18	サービス管理者研修	井藤	総合リハビリテーションセンター
2024. 1. 23	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	金田	オンライン開催
2024. 1. 26	福祉・介護職員処遇改善加算等取得促進支援セミナー	上田	オンライン開催
2024. 2. 22	サービス管理責任者更新研修	西田	福祉のまちづくり研究所

7 会議の開催

ア 職員会議（月1回）

- （ア） 行事の確認や打ち合わせ、次月予定等の確認を行う。また、職員会議の場で職場内研修や外部からの講師を招いての研修を開催。
- （イ） Zoom を活用したオンラインでの参加も可能で、引き続き9割以上の職員が毎回、参加出来ている。

イ 個別支援会議（随時）

- （ア） 利用者の現状を把握し、課題の分析と今後の支援方法について確認を行う。
- （イ） 資料の配布をやめ、ペーパーレス化を図る。
- （ウ） 職員専用 LINE にて更新した個別支援計画を閲覧できるようにして情報共有を図り、支援の内容や方向性を職員全体に伝えることができています。

ウ 各種委員会

- （ア） 虐待防止（身体拘束廃止検討）、事故防止、感染症対策委員会を開催。（年1回）

8 健康管理

ア 登園時の検温、月一回の体重測定と血圧測定を実施している。

イ 感染症（インフルエンザ、新型コロナ等）拡大予防

- （ア） 登園前（自宅での）の検温依頼。登園後の検温実施。発熱（感染流行時期等）が見られた場合は様子観察し、場合によっては利用自粛や早退、医療機関等での検査を依頼。
- （イ） 事業所内で複数人以上の感染者が出た場合には手洗い、消毒、マスク着用等の強化と共に部屋の移動制限や対面での食事を避けるなどの対策を講じている。

ウ 常勤職員を対象に健康診断を実施。（2月）

エ 非常勤職員に対して、健康診断費用の補助（5,000円）を支給。

オ 利用者対象の健康診断を原則廃止し、自主的に健康診断を受診してもらうよう勧める。

9 防災対策

ア 現在の状況

- （ア） 9月・3月に漏電による火災、6月には水害を想定した避難訓練を実施。
- （イ） 姫路東消防署より消火器（訓練用）を借り、使用方法の確認を行う。

イ 今後の課題

災害により甚大な被害が施設やその周辺等に生じた時に利用者への支援提供を継続していく上で事業継続計画（BCP）に基づいた行動や対応が出来るかが課題。

10 利用者支援全般

ア 支援の状況

- (ア) 各利用者との信頼関係を構築し、安心して通所していただけるように配慮している。
- (イ) 視覚支援や環境調整等による、わかりやすく過ごしやすい環境の整備を行う。
- (ウ) 作業時の自助具の作成、活用を適宜行うことで利用者個々の可能性を拓げる取り組みを実施している。
- (エ) 引き続き対価（施設外就労、販売）として各種手当を支給することで、モチベーションの向上を支援。
- (オ) 散歩等の運動の他に、体操やマッサージを取り入れ、拘縮予防等身体的な支援と、心の安定等精神的な支援を行う。
- (カ) タブレット機器を導入し多様な休憩スタイルの時間を確保。

イ 今後の課題

- (ア) 個々の障害特性に特化した環境調整や取り組みの実施とそれに必要な人材の育成と知識の拡充。
- (イ) 利用者と保護者の高齢化を踏まえた支援が年々必要性を増している。利用者の意向、保護者の意向と家庭状況を適宜把握し、相談支援事業所など外部との連携の上、情報提供や相談対応を行えるよう体制を整えていくことが必要。

11 下請け事業部門

【内職作業】

- ・ 箸のセット ・ シールセット製品化 ・ サッシ、自販機部品の組立
- ・ 靴下フック部分取り付け ・ ペットフード袋詰め ・ 箱折り（春～夏） ・ 封筒等折り作業（新）

【施設外・清掃作業】

- （通年） ・ キャスティウォーク※ ・ 姫山公園※ ・ （12～3月末）総合福祉会館※
- （春～夏） ・ 大塩緑道※ ・ ハローズ姫路東店駐車場 ・ ハローズ夢前台店駐車場
- ・ 野里マンション清掃（新）

※は姫路市より受託

- ・ 中播磨県民センター

ア 現在の状況

- (ア) 引き続き全体的に安定して下請け作業を進めることができている。
- (イ) 施設外作業として姫路市より清掃業務委託を4件、継続して受注。

イ 今後の課題

利用者支援や他部門とのバランスや調整をしていきながら、継続した作業受注と新規開拓を行

う必要がある。

12 食品製造部門

【主な販売先など】

- ・はーとふる SHOP（市役所） ・イオン姫路店 ・総合福祉会館 ・香りの里
- ・中播磨県民センター
- ・福崎町駅前観光交流センター・辻川観光交流センター・事業所での直接販売 ・オンライン販売

ア 現在の状況

- (ア) 材料費の高騰と品質の向上を図るため、価格改定。
- (イ) はばたけ授産品コンクール食品部門において、「お菊さんのうらめしや〜クッキー」が金賞を受賞。
- (ウ) 他事業所（若葉作業所、きゃのーら）にて委託販売（イベント時）
- (エ) 菓子業界経験者を専属パティシエとして採用し、製造から販売まで新たな展開を図っている。
- (オ) POS システムの導入により効率的な売り上げの向上とコスト削減を目指す。

イ 今後の課題

- (ア) 新商品の開発
- (イ) 委託販路の拡大
- (ウ) 工房業務の育成

13 創作活動部門（雑貨等販売部門）

【主な販売先など】

- ・はーとふる SHOP（市役所） ・イオン姫路店 ・PRIVATE SHOP MOKU ・姫路の雑貨屋「orange」
- ・BALLERS（神戸） ・事業所での直接販売 ・オンライン販売
- ・若葉作業所（イベント時） ・きゃのーら（イベント時）

【出展・その他】

- ・奈良県 GOOD JOB STORE 主催イベントにて「ぷち笑もん」が採用・販売
- ・amiami!?!が運営するアートパネルのサブスク事業にて、作品採用
→京都信用金庫 QUESTION にて記念イベント参加
- ・バスケグッズ専門店(株)オンザコートと山口欽也さんのコラボグッズ販売
→BALLER 'S 神戸店にて作品公開制作イベント開催
- ・姫路市の内装会社(株)リンクプラスと三木謙一さんのコラボ壁紙販売
- ・第9回東北障がい者芸術全国公募展にて、藤原恵さん入選
- ・『アートで祝おう!!100人の姫路城タペストリー展』にて多数の作品出展
- ・シェア ACT. えんで開催された『わたしのひめじ展』に多数の作品出展

ア 現在の状況

企業とのコラボグッズ販売やイベント参加など、昨年より多様な活動となった。昨年に続き、公募展の応募やインスタグラムによる広報活動も積極的に行っている。

イ 今後の課題

- (ア) 公募展応募や当事業所主催の展示会を行う事により、やりがいを持てる活動を支援することが必要。
- (イ) 販売先の拡大と売上の伸びから、在庫の確保が必要。
- (ウ) 創作活動に興味を示す利用者の作品をより独創的、芸術的に見せる創意工夫など。

14 生活習慣病予防等

ア 支援の状況

- (ア) 主に健康増進を目的とし、生活習慣病等予防・悪化防止に努める。
- (イ) 生活改善等の取り組みが必要な利用者については、個別支援計画に組み込む等し、保護者と連携して取り組みを行っている。
- (ウ) 『楽しく前向きに』を意識した取り組みを実践。成果を可視化するなどして、継続的に取り組めるよう個別の支援を行っている。
- (エ) 対象利用者には拘縮進行予防を目的としたリハビリを実施（1回／日）

イ 今後の課題

- (ア) 利用者の年齢等を踏まえ、今後、作業や創作活動と並行した取り組みとして形を変化させていくことが必要であり、他活動とのバランスが課題。
- (イ) 生活習慣の関係上、家族との連携が不可欠であり共に真剣に考え合うことが必要。

15 研修活動

ア 支援の状況

- (ア) 1人当たり年間2,100円（年3回）の予算で、少人数に分かれて活動を行う。
- (イ) 月に2回程度土曜日を開所。5～6名のグループに分けて実施することで安全の確保や充実度が向上する。
- (ウ) 土曜日の活動に参加希望者は内容により増減するも平均20名程度である。

イ 今後の課題

- (ア) 外部交流や外出等、より開放的な体験を提供する必要がある。

16 家族との連携

ア 家族旅行（11月・ドイツの森）、家族会合同地域清掃（3月・雨天の為中止し交流会に変更）を実施。

イ 利用者・家族・職員が連携する事により各々の信頼関係を深めている。

ウ 広報誌“ほほえみ”を月に1回発行。事業所の日常や、次月予定をはじめとした情報を

発信している。

17 地域交流

- ア 出店販売では利用者も参加、社会参加に繋がっている。
- イ 外部の創作展示会や各種イベントに参加。

18 バザー出店

姫作連まつり・あうんフェスティバルに出店。

19 労務・経理関係

- ア 全職員を対象に管理者による個人面談を実施し、現状の把握や今後の方針を再確認する。
- イ 残業時間を短縮。
- ウ 公益財団法人兵庫県勤労福祉協会より「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」に認定。

20 ICT の活用

ア 現在の状況

(ア) 職員間の情報共有を目的としたオンラインツール活用 (LINE、Zoom) や、タブレットの活用。

イ 今後の課題

- (ア) オンラインツールやタブレットを活用することによる個人情報の流出の危険性。
- (イ) タブレットで利用者がインターネットを利用するにあたり、不適切なサイトへのアクセスの予防と対策。
- (ウ) タブレットの多用による職員と利用者及び利用者間同士のコミュニケーション不足をはじめとした様々な問題を改善する取り組みも一方で必要。

21 その他

新事業所建設に向けて、土地取得 (8 月 31 日)。現在図面が完成し、社会福祉施設等施設整備補助金の申請に向けて準備中。